大阪インターナショナルチャーチ　　ブルース・アレン牧師
中心聖句：ローマ人への手紙 12 章 1 節、詩篇 23 篇 3 節、マタイの福音書 16 章 24 節、
　　エペソ人への手紙 2 章 10 節　　現代英語訳、特に記載のない場合

2026/03/08

親しみやすい対話形式のメッセージ：生きたささげものとしての働き

おはようございます。　天の父なる神様の家へようこそ来られました。
注記：もしあなたがアメリカに知り合いがいるなら、今夜からサマータイムが始まるため、あなたとの時差が 1 時間縮まることになります。

今朝、私はイエス様に仕えるクリスチャンの奉仕に目を向けるため、もう一度ローマ書を見ています。　しかしながら、私はフルタイムの奉仕者に召されていない心からイエス様を信じる方のための考えを含めたいと思います。

私は私の人生経験や、何人かの恩師たちの経験を含めるのでこれを親しみやすい対話形式のメッセージと呼んでいます。　私の恩師たちとは、大抵の場合、直接個人的やまた書物でした。

また、いくつかの聖書箇所を注解し意味を引き出します。　そして、献身的な宣教師として仕えた人々や、また著名なクリスチャン実業家を例として取り上げる予定です。

生きたささげもの　－　クリスチャンにとって選択肢ではない

天に入り、栄光の冠を受け、それをイエス様の足もとに投げ出すとき、私たちは何という喜びを味わうことでしょう。　神様にあっては、不可能なことは何一つありません！」

私は前回のメッセージを、次の言葉で締めくくりました。

本日のメッセージは、義認と呼ばれる救いに至らせる神様の無条件の愛という聖書の真理と、私たちの聖化の一部である、生きたささげものや神様の子どもたちを愛することにおける神様の条件付きの愛とを、結び合わせました。　愛するクリスチャンの皆さん、クリスチャンの人生は難しくないことを覚えていてください。　不可能なのです。　だからこそ神様は、それを可能にするために、ご自身の聖霊なる神様を私たちにお与えになられたのです。

さらに、イエス様を通して神様との個人的な関係は、私たちは『ロボット』ではないことも明らかになります。　神様は、ご自身との愛の関係のために人間を創造されました。
クリスチャンだけが自由意志を持つ者として神様を愛し返すことができるのです。

そして私たちが天国に入り、栄光の冠を受け、そしてそれらをイエス様の御足もとに投げ出すとき、なんという喜びがあることでしょう。　神様は、不可能なことは何一つありません。

救いに至る神様の無条件の愛

私の 2024 年 4 月のローマ書 12 章のメッセージで、私は次のように述べました。

義認は、私たちはもはや有罪ではなく、私たちの永遠の赦しを買い取られるためにイエス様が十字架で死なれたことに基づいて義とされていると神様が宣言されることです。　私たちの義認は、神様のご計画に従っています。　聖書に啓示されているように、時が始まる前　－　時の中で －　時が終わった後、それ以上はありません。

また、ローマ書は、宇宙の主権者なる王である神様が、すべての人の救いを御言葉の中に、さらに神様に選ばれた教会の手に置かれたことを宣言しています。　そして本日は、信仰によって義とされイエス様に従うクリスチャンが、生きたささげものとして、すなわち聖化された信じる者として、献身的な奉仕へと導かれていくのかを、パウロがどのように説明しているかを、さらに詳しく見ます。

それゆえに、神様の継続的な愛は、今やイエス様を信じている者の人生に神様がその人を導かれることによって示されています。　詩篇の作者が＜詩篇 23 篇 3 節＞で語ったとおりです。

＜詩篇 23 篇 3 節＞
主は私を豊かな牧草地にいこわせ、 ゆるやかな流れのほとりに導いて行かれます。 主は傷ついたこの身を生き返らせ、 主の栄光を現すことができるよう、 私を助けてくださいます。

神様はご自身のすべての子どもたちに忍耐強く、また親切なお方です。　しかし、それでもなお、イエス様に従うためのイエス様の要求は真実です。　＜マタイの福音書 16 章 24 節＞に記されています。

＜マタイの福音書 16 章 24 節＞
それから、弟子たちに言われました。「だれでもわたしの弟子になりたければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしについて来なさい。

私たちがイエス様に従うとき、私たちは聖化されます。　すなわち、主の栄光と良い行いのために、主のかたちに似せて新しく造り変えられ、聖別されるのです。

＜ローマ人への手紙 12 章 1 節＞で言っています。

＜ローマ人への手紙 12 章 1 節＞
愛する皆さん。そういうわけですから、あなたがたにお願いします。あなたがたの体を、神に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてささげてください。それが神への礼拝となるのです。

神様は、私たち自身をささげものとして主にささげるよう求めておられます。　私たちが神様と、御子イエス様の犠牲に、真の畏敬の念、または敬虔な恐れを抱くとき、神様が私たちをイエス様の自己犠牲の足跡に従う者として召してくださることを光栄に感じます。

イエス様こそ、私たちのために十字架の上でご自身のいのちをささげられたお方です。
神様のご計画は、すべてのクリスチャンが最終的な聖化、天国までイエス様に従うにつれて、ますますイエス様に似た者とすることです。

以上のことの結論として、とにかくイエス様に従うことは、クリスチャンが神様から自分に割り当てられた個人的な十字架を背負うことによって主イエス様に従順に従うことです。イエス様に従うというそのような要求と共に、クリスチャンの理にかなった、あるいは当然の奉仕は、生きたささげものとして自分の全生涯をイエス様の奉仕のためにささげることでもあります。

愛するがゆえにイエス様に従うクリスチャンは、信仰的に成熟していくにつれて、この生ける水に心からの従順であることに気づき喜びが増し加わります。　フルタイムの奉仕者だけがこのことを可能にすることができると、なぜクリスチャンが思い込んでしまうのかは簡単にわかります。　しかし、それは真実ではありません。　そこで本日は、神様の助けをいただきながら、「私はフルタイムの奉仕者として、生きたささげものとなるように召されているのだろうか。　もしそうでないなら、どのようにしてイエス様のための生きたささげものとなることができるのだろうか。」という多くのクリスチャンが心を悩ませていることに答えれるようにしたいと思います。

生きたささげものと宣教
私の最高司令官として、私の個人的な救い主イエス様とともにおられる私の経験です。
私は、常にイエス様の御指揮のもとで完全に従順な兵士であったと主張するつもりはありません。

しかし、神様の恵みによって、イエス様は私を現在は牧師・教師・宣教師として日本へもたらされたのは御言葉と聖霊なる神様によってです。　私の経験が、誰かが自分の人生への神様の御心を思い巡らす助けとなるかもしれません。　しかしながら、キリストにあって、またキリストのために、私の人生を形成した幾人かの著名な人物も分かち合います。

私は 1970 年代のアメリカで、多くの人々がイエス様を信じて新しく生まれ変わった特別な時代、「ジーザス・ムーブメント」と呼ばれているなかでイエス様を信じて新しく生まれ変わりました。　神様は非常に倫理的に考えることを恐れられないので、やがてそれは宣教運動になりました。　神様はより多くの宣教師に導かれるより多くのイエス様を信じる者を救われました。　しかし、ジーザス・ムーブメントは、既存の福音派教会が宣教をおろそかにしていたことにも目を覚まさせました。

私がキリスト教大学で、私の宣教学の教師の一人がこう言うのを聞きました。

「20 世紀初頭の間、＜マタイの福音書 28 章 19 節＞でイエス様が命じられた全世界への宣教という大宣教命令は、大いなる怠惰になってしまいました。」

キリスト教宣教史の中で名を残すことになる宣教師を含む多くの宣教師は 19 世紀に召命されました。　彼らは、非常に脆弱な船に乗り込み、危険で荒れ狂う大海原へと漕ぎ出していきました。　世界の海を越える大きな危険のその先は出会う敵対的な人々を愛し、イエス様の福音を教えることでした。　中には、宣教地に到着する前に病で命を落とした者もいました。　また、愛そうとして赴いた人々によって殉教した者もいました。

私が学んだRalph Winters、Donald McGavern、J. Christy Wilson、そしてその他の方々をはじめとする宣教学の教師たちは、私たちに、「神様があなたにＮｏと言われるまで、フルタイムの宣教師になろうとしなさい。」と言われました。　私はそうしました。そして今、「私はここにいます！」。

しかし、1970年代には、神様の愛ある「Ｎｏ」を聞いた人々も実に多くいました。

BRUCE牧師のフルタイム奉仕での教師たち

ここに挙げる方々は、ご自身を生きたささげものとして神様にささげた、模範的な人生を歩まれた方々です。　彼らはフルタイムの奉仕に、神様の愛に応えていくために神様に召命されました。　私は、神様がいかに偉大であるかを私たちの多くよりもより深く理解していたそのような偉大と呼ばれるにふさわしい神様の人を三人選びました。　Dietrich Bonhoeffer、Adoniram Judson.（またはAdoniram Judson Gordon）、そしてEric Liddellです。

DIETRICH BONHOEFFER

このメッセージのために、私はGoogleでいくつかの事実を確かめました。　しかし、多くは、私自身が読んできた、また、生きたささげものになるという彼の最も影響力のある著書について私が神学校で論文を書いた記憶からです。　その著書は『The Cost of Discipleship（弟子としての代価）』という題名です。　この題名が示しているとおり、彼の有名な言葉の一つは、「安価な恵みは、罪人が義とされることなしに、罪が義とされることを意味する」です。　私はBonhoefferに関する書籍を読み、映画を観ることで、Amazonの販売ページの以下の抜粋を確認しました。

「二十世紀における最も重要な神学者の一人が、私たち自身とイエス様の教えとの関係を明らかにしています。　『The Cost of Discipleship（弟子としての代価）』は、福音で奮い立たされたリーダーシップの、またクリスチャンのヒューマニズムのスピリットと創造的な市民的責任感で植え付けられた新しいタイプの、人生や考えが他の模範となる明確な表現である人の、犠牲と倫理的一貫性の要求を真実であると人に確信させる書物です。

Bruce牧師は、アマゾンのクリスチャンのヒューマニズムと創造的な市民的責任感に注目しています。　その理由は次の通りです。

ドイツの牧師であり教師でもあったBonhoeffer牧師は、ユダヤ人の抹殺に深く心を痛め、Adolph Hitlerを暗殺しようとするドイツ軍将軍たちの陰謀に加わりました。　私は、イエス様は憐れみのゆえに全能の力を用いるという誘惑があられたかもしれないと思います。しかしイエス様は＜マタイの福音書26章52節＞で言われました。

＜マタイの福音書26章52節＞
ところが、イエスは彼を制して言われました。「剣をさやに納めなさい。剣を使う者は、自分もまた剣で殺されるのです。

私たちは皆、多くの点において私たちの主に及びません。　Bonhoeffer の陰謀は、「罪」というよりはむしろ「過ち」と呼ばれるものかもしれません。　私は神学校での論文の中で、イエス様が教えられた「弟子としての代価」を支払った模範としての彼の人生の Bonhoeffer を高く評価しました。　しかしまた私は、この世における善と悪を支配しておられる神様の主権への信仰が、彼には欠けていたのではないかとも評価しました。ヒトラー暗殺の陰謀は失敗しました。　このことは Dietrich に絞首刑という死をもたらす代償となりました。　そのおよそ一か月後、アメリカ軍およびイギリス軍から成る連合軍がドイツに侵攻し、収容されていたユダヤ人たちを解放しました。　これが重荷を軽くしてくださるよう祈る Bonhoeffer への答えであったことでしょう。　なお、神学校以来 37 年にわたる私の牧会および宣教の働きは、私の正しい神学を変えるものではありません。　しかし、あわれみによる人間的な彼の失敗を、より深く理解しています。　また、Bonhoeffer は『弟子としての代価』において、牧師ではない人々についても考慮しました。　アマゾンの要約が述べているように。

弟子としての召し、すなわちイエス様の御言葉に従うことは、今日、実業家や兵士、労働者、あるいは貴族にとって、いったい何を意味するのでしょうか。　イエス様は私たちに何を語ろうとする意味だったのでしょうか。　今日の、私たちへの主のみこころは何でしょうか。　山上の説教を活用して、Dietrich Bonhoeffer は、「安価な恵み」と「高価な恵み」という二つの独創性に富んだ読み物を与えて、これらの時代を超えた問いに答えています。

Bonhoeffer は「安価な恵み」と「高価な恵み」について記しました。

「安価な恵み」は、弟子としてではない恵み、私たちが自分自身に与える恵みです。「高価な恵み」は、何度も何度も求められなければならない福音であり、願い求められなければならないものであり、人が知らなければならない扉です。　それは人のいのちを代価とするがゆえに高価であり、そして、人に唯一まことのいのちを与えるので恵みです。

ADONIRAM JUDSON

私は『The Splendor of Glory（栄光の輝き）』という題の本で、初めて ADONIRAM JUDSON のことを知りました。　アメリカ合衆国ミズーリ州スプリングフィールドにいる私の牧師が、私とドロシーが宣教への思いを打ち明けた際に、この本を貸してくださったのです。　Judson の名声は、おそらく今後書かれるすべての伝記や書籍は非常に正確なものとなる可能性が高いでしょう。　私は、1987 年に出版された『To the Golden Shore: The Life of Adoniram Judson（黄金の岸辺へ　：Adoniram Judson の生涯）』という本のアマゾンの概要から始めます。

1812 年 2 月 12 日、Ann と Adoniram Judson は、北アメリカから派遣される最初の宣教師のうちの二人として、アメリカ合衆国マサチューセッツ州セーラムを出航し、ブリッグ船キャラバン号に乗って航海に出ました。　海岸線が視界から消えていくのを見つめながら、彼らはこの旅が将来の世界キリスト教宣教に、また自分たちの後に続く何千人もの男女に影響を及ぼすことになるのか、想像することはできなかったでしょう。　インドに短期間滞在した後、彼らはイエス・キリストの福音をビルマの「黄金の岸辺」へと携えて行きました。　Courtney Anderson は、手紙や教会の記録を利用して、物質的成功への願望と神

様に仕えるという内なる召しとの間に葛藤に向き合った Judson の若き日の姿を、感動的に生き映し描き出しています。

Adoniram Judson にとって「黄金の岸辺」は、激しい苦難や投獄、そして家族の悲劇をもたらしました。　それでも彼は、キリストへの信仰へと人々を導くこと、そして聖書をビルマ語に翻訳することへの献身を決して揺るがすことはありませんでした。　『To the Golden Shore（黄金の岸辺）』の特別版は、Judson 夫妻の歴史的な航海へと出発してから 175 周年を認めて、海外におけるバプテスト宣教の初期を祝うものです。　Judson の物語を語るのに、写真やビルマの木版画の複製が用いられています。　（アマゾンより）

ビルマの木版画は、当時のビルマ（現在のミャンマー）の人々が、「The Splendor of Glory（栄光の輝き）」に生きたささげものとなるためにまさに自らのいのちをささげたこの人物をいかに深い尊敬の念をもっていたかを示していることに、どうぞご留意ください。　私はここ OIC で、仕事の都合がつくと出席される一人のクリスチャン女性にお会いしたことを大変祝福に感じました。　彼女はミャンマー出身で、Judson が設立した教会が、内戦やイスラム勢力からの圧力にもかかわらず、存続していることを確認されました。彼女はまた、人々が今でも Judson 牧師を高く尊敬しているとも話してくれました。
もちろん、『The Splendor of Glory（栄光の輝き）』を読んだとき、私のアメリカの故郷とのつながりを感じずにはいられませんでした。

Adoniram と Ann Judson は、北アメリカから派遣された最初の海外宣教師でした。　彼らは、私の故郷の州であるマサチューセッツ州セーラムから出航しました。

Judson は、自らの「英雄」であったイギリス人宣教師 William Carey と共に働くことを望んでいました。 Carey はすでに宣教師の間で有名でした。　Judson を派遣した宗派との対立は、失意のうちの Judson と妻 Ann とともにインドからビルマへと進路が変更されることになりました。

激しい苦難、投獄、そして家族の悲劇

Judson 夫妻は、この新しい言語に、そして 19 世紀のマサチューセッツよりも恵まれていない国での困難に当然の苦労を経験しました。　Adoniram は、語学の習得が進むにつれて聖書の翻訳を始めました。　ビルマ王からの抵抗もまた強まっていきました。　政治的な目的ではなく宗教的なものであることを説明するために謁見を得るには、当時の文化的慣習、すなわち宮殿の衛兵に賄賂をしなければなりませんでした。　それによってしばらくの猶予は得られましたが、王は近隣のインドに駐留していたイギリス軍に対して強い疑念を抱いていました。

王は Judson を逮捕し、1 年以上も宮殿の床下にある汚水と汚物の中へと閉じ込め、ました。　その間、いくつかの手紙が外へ持ち出され、Ann とやり取りされました。　彼女は妊娠していました。

ビルマにイギリスから来ていた他の宣教師たちがいたため、ついにイギリス軍が到着しました。　Judson は釈放された後、帰宅してみると、Ann も赤ん坊も両方とも出産の際に亡くなっていたことを知りました。

Judson は、森の中の小屋へと行き人間らしい弱さを見せました。　彼は墓を掘り、神様に自分を殺してくださるように懇願しながら、一日中その墓に身をかがめていました。この日課を何か月も続けた後、宣教師の友人たちが彼を救いに来ました。　Judson はさらに二人の妻を亡くし、そしてビルマ教会の設立と聖書をビルマ語に翻訳する両方を成し遂げました。

そして 1893 年に、有名な宣教師として、彼は『The Holy Spirit in Missions（宣教における聖霊）』という題で 6 つの講演をまとめた著書を書きました。　彼は次のように冒頭で述べました。

「私はまだ熱病から回復したばかりで、神様の惜しみない憐れみに神様に、また Bernettes 夫妻や Richardson 博士に感謝を記すことができます。　私の失われかけた命にもう一つの期間が加えられています。　もし、取るに足らぬ虫けらの私が、あなたの偉大な栄光のために生きることが許されるなら」

彼が自らを虫けらと呼んだのは、『イザヤ書 41 章 14 節』にある表現であるとご留意ください。

＜イザヤ書 41 章 14 節＞（リビングバイブル訳）

イスラエルよ、たとえ軽蔑されても恐れるな。 わたしは必ずあなたを助ける。 わたしは主、あなたを贖う者だ。 わたしはイスラエルの聖なる神だ。

＜イザヤ書 41 章 14 節＞（口語訳）
主は言われる、「虫にひとしいヤコブよ、 イスラエルの人々よ、恐れてはならない。 わたしはあなたを助ける。 あなたをあがなう者はイスラエルの聖者である。

またおそらく Judson にも読まれていた当時イングランドの Charles H. Spurgeon の書物は、この聖句を注解していました。　彼は小さな虫を、農夫の穀物倉に食べ物を求めてやって来る、もう一つの小さな生き物、蟻となぞらえました。　イスラエルへの神様の愛は、彼らのいかなる必要をもはるかに超えて与えることのできる、神様の全能の力でした。これは約束された祝福です。　Judson は、自らの主であられ救い主であられるイエス様の御前で自分の小ささを言い表していました。

1893 年の Judson の 6 つの講演をまとめた著書で、Judson は、宣教が聖霊なる神様ではなく人間が運営していることに深い懸念をもっていました。

Judson は次のように記しました。
「異邦人の間における宣教の歴史の最初の言葉は、＜使徒の働き 13 章 2 節＞からです。」

＜使徒の働き 13 章 2 節＞
ある日、彼らが礼拝をささげ、断食していると、聖霊が、「バルナバとパウロに、わたしの特別な仕事をさせなさい」と言われました。
彼はこう続けています。

「神様は使節を遣わされます。　しかし、神様はご自分の働きにボランティアを召命されるのではありません。　そして、教会の現在の管理者であられる聖霊なる神様は、自らを神様の奉仕にふさわしいと判断する者たちを採用される代わりに、神様が主権をもって選ばれる者たちを任命されるのです。」

彼は謙遜な奉仕者として、宣教地に説教者を送り出すよりも、むしろクリスチャンの学校を計画し建設した人々を称賛しました。　彼は神様の実であることを認めていました。

しかし彼はこう言いました。
「最も大いなるリバイバルは、説教者が最も悲惨な罪人たちに福音を宣べ伝えるために油注がれるときに起こるのです。」
彼は当時のいくつかの実例を挙げました。　私は、非常に野蛮で残酷な村の首長に近づいていく宣教師の彼の話をはっきりと覚えています。　人々が彼を殺す前に、その宣教師はその首長に福音を宣べ伝えました。　その異教徒は主の御前にひれ伏し、自らが説教者となって、村全体をイエス様への信仰へと導きました。

私は、宣教の困難さ、特に彼がビルマ（ミャンマー）で経験した困難についての Judson の表現が大好きです。　ビルマもインドも、実際に虎の危険があります。　Adoniram Judson は、私の日本宣教は不可能だというような表現を選びました。

それは、彼は、「私は生きている虎の犬歯を引き抜こうとしている。」と言った表現です。

生きたささげものとなることは、ただはたらきの中ではなく、心の中である

多くの新しくクリスチャンになられた方は、愛なる神様を愛し返すということは、フルタイムの奉仕に就くことを意味するにちがいないと思いこまれているでしょう。　1970 年代の多くの牧師たちは誤った態度を防ぐために、「すべての人がフルタイムの奉仕になることになっていない」と語りました。

しかし、私はそのようには言いません。　なぜでしょうか。　それは、神様からそれをするようにあなたは召されていないという何か否定的な考え方にそって考えることはあまり若いクリスチャンの助けにならないと信じているからです。　私の若いクリスチャンたちへの姿勢は、イエス様に完全に身をささげなさいということです。　そうすれば、神様が前もって備えてくださったものをあなたは見失うことはできません。　すなわち、＜エペソ人への手紙 2 章 10 節＞から、私たち（あなた）がそれらの中を歩むべきです。

＜エペソ人への手紙 2 章 10 節＞
私たちをこのように造り変え、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは神です。この新しい生活は、神がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためでした。

神様があなたを肯定的にものごとをするように積極的に立ち向かわせてくださると信じることは、本当にそれをすることに助けとなります。　信仰はしばしば、否定的な態度よりも、むしろ肯定的な態度のうちに示されます。

注：生きたささげものか、それとも偽善者か？

ところで、自分はイエス様に完全に身をささげているように振る舞うが水のバプテスマを拒むクリスチャンは偽善者です。　私は、そのような人はまったくクリスチャンではないと考えます。　使徒マルコは＜マルコの福音書 16 章 16 節＞で、次のように記して、このことを明確にしました。

＜マルコの福音書 16 章 16 節＞
信じてバプテスマ（洗礼）を受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

ある人は、「そこでは、信じないことは罪に定められる道だと言っている」と言うかもしれません。　しかし、十字架でイエス様の犠牲によって救われた罪人が、もしこの罪人が今や聖徒とされたのなら、永遠のいのちへとイエス様に従っていこうと望み、自己に死ぬと示されるために水のバプテスマを受けるという、その御言葉のイエス様に従わないとどのようにできるでしょうか？　使徒パウロが＜ローマ人への手紙 6 章 8 節＞に書いたとおりです。

＜ローマ人への手紙 6 章 8 節＞
罪を愛する古い性質がキリストと共に死んだのですから、確かに私たちは、キリストの新しいいのちを共有しているのです。

一度、イエス様を信じる者が水のバプテスマに従うという従順の中でイエス様に従えば、神様は明確に忠実にその人をなすべき働きへと導かれます。　そして最終的に、その人の召しが何であるかを明確にしてくださるのです。

それは、日々の生きたささげものとしてだけでなく、目的に導かれた人生のためにもです。

一般のクリスチャンの生きたささげものとしての生活

フルタイムの奉仕に召されていないクリスチャンにおいて、まず探し求める初めの実りのひとつは、「働く意欲」と「お金の扱い方」です。

働く意欲

＜テサロニケ人への手紙Ⅰ　4 章 11　－　12 節＞
11 そして、以前にも教えたように、静かな生活を送り、仕事に身を入れ、喜んで働きなさい。
12 そうすれば、クリスチャンでない人たちからも信用され、尊敬されることでしょう。また、他の人に負担をかけなくてすむでしょう。

そして ＜テサロニケ人への手紙Ⅱ 3 章 9　－　11 節＞
９私たちにそれを要求する権利がなかったからではなく、自分の生活は自分で支えるという模範を、身をもって示したかったのです。
10 そちらにいた時にも、「働かない者は食べる資格がない」と教えたはずです。
11 ところが聞くところによると、あなたがたの中には働くのをいやがり、一日中ぶらぶらして、うわさ話ばかりしている人がいるということです。

お金を愛すること

＜テモテへの手紙Ⅰ 6章9節 - 12節＞
*9*しかし、金持ちになりたがる人はもうけ話に見境がなく、すぐ悪に走ってしまいます。その結果、ひどい目に会い、心を汚し、ついには地獄へ送り込まれることになります。
10金銭を愛することが、あらゆる悪の根です。ある人たちはお金を愛するあまり、信仰から迷い出て、ひどい苦痛をもって破滅に陥りました。
11テモテよ。あなたは神に仕える者です。ですから、これらすべての悪から逃れて、正しく良いことに熱心に励みなさい。神を信頼し、人を愛し、忍耐強く、ものやわらかな態度を身につけ、
12信仰のために戦い続けなさい。神から与えられた永遠のいのちを、しっかり握っていなさい。あなたは、この永遠のいのちについて、多くの証人の前で堂々と告白したのです。

私は個人的に、経済的に非常に成功したクリスチャンの医師や実業家を何人か知っています。　しかし、私はビジネスにおいて生きたささげものとなる願いを示した、ある有名なクリスチャン実業家を選びました。　Harland Sanders です。

皆さんは彼を、ケンタッキー・フライド・チキン（KFC）の創業者である Colonel Sanders としてよく知っておられるかもしれません。

HARLAND SANDERS

私が読んだ彼の自伝『Life As I Have Known It Has Been Finger Lickin’ Good』　KFC の有名なスローガン「It’s Finger Lickin’Good（指までなめるほど美味しい）の際に覚えているいくつかの事実とアマゾンページの要約を用いて、Colonel Sanders は次のような経歴を持っています：

小学校6年生で中退、農場労働者（12歳のとき）、陸軍のラバ飼育係、機関車火夫、鉄道作業員、志望弁護士、保険営業、フェリーボート事業者、商工会議所事務局員、タイヤ販売員、アマチュア産科医、失敗した政治候補、ガソリンスタンド経営者、モーテル経営者、レストラン経営者。

彼のガソリンスタンドは、車があるローソンのようなものでした。　もちろんガソリンを給油しながら、チキンなどの食べ物を提供していました。　初めての妻は、彼が「料理実験室」での仕事に費やす時間があまりに多かったため、離婚しました。

そして65歳のとき、新しい州間高速道路が開通し、彼のコーナーから交通は奪われてしまいました。　Colonel Sanders に残されたものは、月額105ドルの社会保障給付と、フライドチキンの秘密のレシピだけで他にはありませんでした。　それは彼が必要だった全てです。

Harland がこう言いました。
「それからできるなら、自分は何か成功する人になると決心しました。　そして、時間も、労働の量も、お金の額も、私の中にある最良のものを出すことから私を妨げない。」

彼が自分の特別なレシピに満足すると、そのチキンのレシピを売り込もうとしました。しかし、レストランのオーナーたちは彼の顔の前でドアを閉めてしまいました。　１度ではありません。　２度でもありません。　1,000 回以上です。

しかし、彼はドアをノックし続けました。　Salt Lake City にある小さなレストランが、ついに「はい」と言ってくれました。　そして KFC が誕生しました。　その１つの「はい」が、やがて世界 150 か国以上、32,000 店になりました。

彼のチキンを気に入った州知事が「カーネル〔ケンタッキー州やルイジアナ州などの〕功績のあった民間人に送る称号」の称号を与えられた Colonel Sanders は、決してあきらめないという実に素晴らしく感動的な物語です。　多くのモチベーションスピーカー（聴衆の士気を高め、人生や仕事における前向きな変化、あるいは目標達成を促す講演者）が、彼の人生の物語を講演の題材として用いています。

しかし彼は、自身の自伝の中で、イエス・キリストを自分の救い主であり主として受け入れたことについても記しました。　多くのカリスマ性と魅力の人、最高のフライドチキンのための彼の風変わりは、彼を世界的に有名にしました。　そしてイエス様を受け入れた後、彼はイスラエルへ行って、ヨルダン川で洗礼を受けました。　Colonel らしいことだと、私は言いたくなります。
富に関しての彼の優先順位もまた、ケンタッキーの素朴な彼の言葉の中で示されました。Colonel Sanders の有名な言葉で、「墓地でいちばんの金持ちになることに、何の意味もない。」とかつて言いました。

そして実際に、彼は自分の全ての利益を、そうです、すべてを慈善団体に寄付しました。もちろん彼は快適な生活を送りましたが、クリスチャンの実業家たちに、なんという証しを与えたことでしょう。　彼は事業を売却しましたが、その後も KFC の大使として世界中を旅しました。　1980 年に、90 歳で彼は天国に召されました。

ERIC LIDELL

このメッセージを、もう一人の信仰の宣教者の英雄である Eric Liddell を話すことなく終えることはできません。　彼の生涯は、受賞歴のある映画 「Chariots of Fire（炎のランナー）」によって有名になりました。　彼は数年間、宣教地を離れて故郷の スコットランドに戻りました。　彼は、足の走りで競争することに決めました。　彼は競争相手がいませんでした。　また、中国での宣教活動から休暇で帰国していた彼の姉は、彼の走ることへの情熱を抑え込みました。　彼は姉に「私が走るとき、主は私を喜んでくださるのです。」と言いました。

また彼は、「神様は私を速く造られたのです。」とも語りました。

彼の卓越した走る賜物は、彼を 1924 年のパリのオリンピックへと導きました。　フランスのオリンピックへ向かう船に乗る際、Liddell は 100 メートル走が日曜日であることを知ります。　英国皇太子やイギリス・オリンピック委員会からの強い圧力にもかかわらず、彼は主日に走ることを拒みます。

彼のチームメイトが平日に行われる 400 メートル競走の出場枠を Liddell に譲ってくれました。　Liddell は転倒してもゴールで数ヤードの差をつけて勝利しました。　神様は彼を速く造られました。

アマチュアランナーとして私自身も、Boston の地元の陸上競技用トラックで、100 ヤードウィンドスプリント【約 91 メートル（100 ヤード）の距離を、全力に近いスピード（70〜90%程度）で、疾走と休息を繰り返すトレーニング法】を何日も行いました。　ある日、ただ自分のことに集中して走っていたことが、どうやら大学の陸上選手たちの自尊心を傷つけたようでした。　私は彼らの一人が、55 歳のこの男について「彼はいったい自分をだれだと思っているんだ」と言っているのを聞きました。

私は、彼らに「神様が速く造られた者だ」と叫び返さなかったことを、いつも後悔しました。　私はシニアのレースに出場しようかとも考えました。　きっと私は、ボストンでいちばん速い 55 歳だったと思います。

イエス様が私が走る姿を見られることを、どれほど主は喜んでくださっているかを静かにささやいてくださいました。　しかし、主は私が栄光へと走るもう一つのレースを持っておられました。

Liddell は、中国の宣教地へ戻りました。　間もなく日本軍が侵攻し、彼が亡くなる収容所に彼を捕らえました。　彼は自分の走るべきレースを走り終えました。　私たちもまた、それぞれの自分のレースを同じように立派に走り終えることができますように。

それでは、お祈りしましょう。